

進学指導研究校としての取り組み（その2）

8月4日（土）に開催した第1回学校見学会では、学校の概要説明の中で、本校の進学指導研究校としての取り組みの一端をご説明させていただきました。今回は、学校見学会ではお話しできなかった、(2) 英語の4技能検定試験（民間）への対応についてご説明します。

現行の大学入試センター試験では、外国語（英語）は、マークシート方式で筆記200点＋リスニング50点の計250点満点で実施されています。これが現高1生のみなさんが大学入試に臨む時には、大学入学共通テストとともに外部英語検定試験（認定試験）が活用されることとなります。活用の仕方は、

(1)共通テスト＋外部英語検定試験

(2)外部英語検定試験のみ

(3)共通テストのみ

の3パターンが考えられます。今のところ外部英語検定試験については、3年次の4月から12月までの期間で、2回までの試験結果を合格者判定に活用できるとされ、認定された主な検定試験には、GTEC、実用英語技能検定（英検）、IELTS、TEAP、TEAPCBT、TOEFLiBT、TOEICL&R、TOEICS&W やケンブリッジ英検などがあります。

生徒たちにとっては、どの時期に、どの検定試験を受けるかが最大の関心事になると思われかもしれませんが、実際には、事前（1・2年次）に検定試験を数回受験し、試験の形式に慣れておくことも重要です。本校は、いち早く2年前から英語教育推進校の指定を受け、全生徒が毎年、GTECを受験する体制を整えていますので、検定試験に対する対応は、全く問題ありません。

しかし本当に大切なのは、生徒一人一人の英語の4技能をきちんと伸ばすことで、検定試験は、あくまでその伸長を測るツールに過ぎません。本校では、日々、生徒の英語の4技能

を伸ばすための授業に取り組んでいます。

また本校では、理系・文系を問わず、すべての生徒たちが地球的視野を持ち、確かな外国語（英語）力を身に付けるために、国際理解教育にも取り組んできました。特にオーストラリアのキラウィ高校との交換留学制度は、今年 30 周年の記念の年をむかえ、同国の地元紙にも取り上げられています。これからもこれらの取り組みを通じて、大学入試改革に対応できる生徒の外国語（英語）力向上に努めてまいります。

本校の進学指導研究校としての取り組みは、今後もホームページ等を通じて、随時ご紹介してまいりますので、ぜひご期待ください。

平成 30 年 8 月 6 日

東京都立狛江高等学校 校長 平野 篤士